

ウィンターカップ 2022
令和4年度 第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会埼玉県予選
大会要項（案）

- 1 主 催 一般社団法人埼玉県バスケットボール協会
- 2 共 催 埼玉県高等学校体育連盟 （公財） 越谷市施設管理公社
- 3 主 管 一般社団法人埼玉県バスケットボール協会 U-18 カテゴリー部会
埼玉県高等学校体育連盟バスケットボール専門部
- 4 期 日 一次予選
東部支部予選 7/16（土）、17（日）、18（月）、22（金）、23（土）の5日間
西部支部予選 7/16（土）、17（日）、18（月）、22（金）、23（土）、24（日）の6日間
南部支部予選 7/16（土）、17（日）、18（月）、23（土）、24（日）、25（月）の6日間
北部支部予選 7/16（土）、17（日）、18（月）、23（土）、24（日）の5日間

二次予選
9/3（土）、4（日）、10/9（日）、10（月）
- 5 会 場 一次予選 学校会場及び公共施設体育館
二次予選 越谷市立総合体育館、深谷ビッグタートル、本庄シルクドーム
- 6 競 技 方 法 一次予選 各支部において、登録チーム数の比例配分によって定められた二次予選出場チーム数分のグループを編成し、トーナメント戦を実施する。各グループトーナメント戦を勝ち抜いた各支部代表校は二次予選に出場する権利を得る。
二次予選 トーナメント方式による勝ち上がり
- 7 参加チーム (1) 一次予選は、2022年度（令和4年度）において一般社団法人埼玉県バスケットボール協会を経て、公益財団法人日本バスケットボール協会に加盟登録している、2022年度（令和4年度）学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技県予選会準決勝（ベスト4）進出チームを除いた全チームの参加によって行われ、二次予選出場チーム（男女各12チーム）を決定する。各支部からの二次予選出場チーム数は下記のとおりとする。
男子：東部支部（3） 西部支部（4） 南部支部（3） 北部支部（2）
女子：東部支部（3） 西部支部（4） 南部支部（3） 北部支部（2）
(2) 二次予選は、一次予選の各支部トーナメントを勝ち抜いた12チームに、2022年度（令和4年度）学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技県予選会で準決勝（ベスト4）に進出した男女各4チームを加えた男女各16チームの参加とする。
- 8 参加資格 (1) 2022年度（令和4年度）において一般社団法人埼玉県バスケットボール協会を経て、公益財団法人日本バスケットボール協会に加盟されたチーム及び登録された競技者であること。
(2) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。
(3) 生徒は埼玉県高等学校体育連盟に加盟している生徒であること。
(4) 年齢は、2003年（平成15年）4月2日以降に生まれた者とする。ただし、出場は3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
(5) 転校後6ヶ月未満のものは参加を認めない（外国人留学生もこれに準ずる）。但し、一家転住などやむを得ない場合は、所属バスケットボール協会長または所属高体連会長の許可があればこの限りではない。

- 9 参 加 費 一次予選、二次予選ともに代表者会議の時に参加チームから3,000円を徴収する。
- 10 申 込 方 法 代表者会議にて抽選を行う。
- 11 エントリー期限 一次予選 2022年(令和4年)7月1日(金)
二次予選 2022年(令和4年)8月31日(水)
- 12 競 技 規 則 (公財)日本バスケットボール協会「2022～バスケットボール競技規則」による。
- 13 ユニフォーム 公益財団法人日本バスケットボール協会のユニフォーム規程による。
- 14 組 合 せ 一次予選 2022年(令和4年)7月1日(金)
二次予選 2022年(令和4年)8月15日(月)
- 15 使 用 球 一次予選 各チームによる持ち寄り
二次予選 男子 モルテン B7G5000 女子 モルテン B6G5000
- 16 ベ ン チ 組合せ番号の若いチームがオフィシャル席に向かって右側とする。
- 17 ドーピング ドーピングコントロール実施対象大会とする。
- 18 そ の 他 (1)二次予選優勝(男女)、準優勝チーム(男子)は全国高等学校バスケットボール選手権大会への出場権を得る。
(2)上記の他、新型コロナウイルスの対策については、別紙の「JBA バスケットボール活動再開に向けたガイドライン」及び「埼玉県U-18カテゴリーに於けるガイドラインの運用について」の内容を事前に確認し、遵守すること。
(3)競技中の疾病、傷害などの応急措置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。
(4)参加校の選手は、必ず引率責任者によって引率され、また学校は参加選手のすべての行動に対して責任を負うものとする。
(5)以下の事項に該当する場合は、参加を見合わせる事
(大会当日に書面で確認を行う。)
ア 体調がよくない場合
(例:平熱より1度以上高い発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
ウ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
※参加予定の生徒、顧問は大会前2週間における行動履歴を記録しておくこと。
(6)他の参加者、主催者スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること。
(7)会場内では大きな声で会話、応援等をしないこと。
(8)会場内における飲食は必要最低限にとどめ、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えること。
(9)生徒の飲食は参加校の責任において喫食させるとともに、ゴミはすべて持ち帰らせること。
(10)生徒の参加については、生徒本人及び保護者の同意を確認すること。
(11)新型コロナウイルス感染への不安から参加を希望しない生徒については、無理に参加させないこと。
(12)新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、無観客で開催するかを専門部で検討する。
(13)今後の情勢によって大会の実施内容を変更し、開催を延期又は中止することがある。
(14)試合時間は一次予選の1.2回戦は8分×4Qとする。一次予選3回戦以降及び二次予選10分×4Qとする。

< JBAガイドライン URL >

http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/JBA_Guideline_5th_20210909.pdf

①人が集まる場の前後も含めた適切な感染予防対策の実施 密閉回避策

ア 競技会場における取り組み

- ・ 1 試合ごとにインターバルを設けて、外気を取り入れた換気を実施する。
- ・ 複数のコートで試合を同時進行する場合は、窓を全開にして競技を行う。

イ 更衣室における取り組み

- ・ 更衣は最短時間で済ませ、更衣が行われない時は常に更衣室の窓を開放して換気を行うようにする。

ウ 控室における取り組み

- ・ 1 時間ごとにインターバルを設けて、外気を取り入れた換気を実施する。
- ・ 可能な限り窓を全開にしておく。

②密閉空間・密集場所・密接場面などクラスター（集団）感染発生リスクが高い状況の回避 密集回避策

ア 移動時における取り組み

- ・ 集合時間に差を設ける。

イ 会場内における取り組み

- ・ 一次予選は開閉会式は行なわない。二次予選は閉会式のみ必要最低限の人数、短時間で実施する。
- ・ ベンチに入れるのは選手 15、コーチ 1、A コーチ 1、マネージャー1、トレーナー 1 の 19 名とする。
- ・ ベンチ外のメンバーの人数について学校会場は感染状況を見て、専門部で判断する。公共施設体育館については使用する体育館の担当者と協議の上、決定する。
- ・ 鳴り物や大きな声を出しての応援は禁止とする。
- ・ 保護者の入場に関しては感染状況を見て専門部で判断する。
- ・ 更衣室の使用は競技終了後のみとし、1 回あたりの入室人員は定員の 50 パーセントまでとする。
- ・ フロアには当該試合に関係するチームのみ試合直前に入場させることとし、試合終了後は速やかに退場させる。
- ・ ハーフタイムのコートを使ったウォーミングアップを行うかは専門部で検討し判断する。
- ・ 試合に出場していないプレイヤーはマスクを着用する。コーチ、A コーチ、マネージャー、トレーナーも同様とする。

③ 密接回避策

- ・ 選手用ベンチ、本部役員席は 1 m 以上間隔を空けて配置する。
- ・ マスクの着用を含めた咳エチケットの取り組みを徹底させる。

④ 熱中症予防対策

- ・ 熱中症警戒アラートが発令された場合等、必要に応じ給水タイム（オフィシャルタイムアウト）を設けることを検討する。
- ・ 試合時間は一次予選の 1.2 回戦は 8 分×4Q とする。一次予選 3 回戦以降及び二次予選は 10 分×4Q とする。

【陽性反応者が出た場合について】 （対象者：チームスタッフ、選手等）

1. 試合日の前後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症の陽性反応者がでた場合 速やかに専門委員長携帯番号へ連絡し、当該者の試合出場、不出場に関係なく、保健所、行政機関等の指示を仰ぎ、以降のチーム出場可否の判断を当該の学校が行う。
2. 試合日後 2 週間以内、対戦相手に新型コロナウイルス感染症の陽性反応者がでた場合 専門部より状況を連絡し、保健所、行政機関等の指示を仰ぎ、以降のチーム出場可否の判断 を当該の学校が行う。

感染者が発生した場合等における緊急対応フロー

